

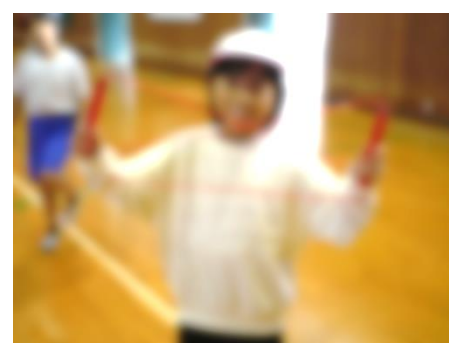
(家庭数配布)



縄跳び出前授業がありました！

昨年度、5年生を対象として縄跳びの出前授業をやっていただいた黒野さん。何と今年もお越しいただくことができました。(今回は3・4年生が対象)まずは、黒野さんの演技を見せていただきます。当然のことながら、そのへんにいるちょっと縄跳びが上手なお兄さんというレベルではありません。目まぐるしく、次々に繰り出される技はどれも圧巻で、私には何をやっているのか全く分かりません。子どもたちにとっても、想像を超えるものだったのではないのでしょうか。

次はいよいよ子どもたちに技を教えていただけます。簡単な技から徐々に難しい技に挑戦です。そして最後には、それまでに習ったいくつかの技を音楽に合わせながらやってみました。3年生も4年生も、とても楽しい時間を過ごすことができましたね。



黒野寛馬さん

頑張って跳んでます

できたよ！

黒野寛馬（くろのひろま）さんプロフィール

数々の世界大会で優勝を経験されている現役の縄跳び世界チャンピオンです。2022年、縄跳び専門レッススタジオ「JUMPLIFE STUDIO」を豊中市曽根東町にオープン。「スポーツを通じて全ての方に健康と笑顔をお届けすること」をビジョンとして運営されています。子どもたちをはじめ、多くの方に縄跳びを指導するとともに、様々なイベントに招かれ、テレビ出演も多数です。(相葉雅紀さんや北川景子さん、その他多くの有名人の方とも共演されています。)

◇校長のつぶやきコーナー

今回は「言葉の覚え方」についてです。まず最初に申し上げますが、「言葉の習得には文字で覚えることが欠かせない」が私の持論です。

子どもたちは、その成長とともに様々な場面で言葉というものを獲得していきます。まず、生まれた直後には、親やきょうだいなどの家族から覚えることが多いでしょう。その後、周りの環境や様々な媒体を通じて、徐々に語彙を増やしていきます。文字が読み書きができるようになると、本などにも触れることもありますが、その場合はきっちりとした検閲の入った文章であることが絶対条件です。人が話している言葉を聞いたり、全くチェックなど入っていないであろうと思われる文章を読んでいるだけでは、本当の意味の言葉の力はつきません。私もそこまで偉そうなことは言えませんが、話す言葉を聞いたり、その人が作った文章を読んだりすると、「この人は文字を通して言葉を覚えていないな。」と感じることはあります。

言葉って、大切です。お互いの思いを伝え合うのは、やはり言葉なんです。ところが、この言葉の伝え方伝わり方に、近年、変化が生じているようです。今から20年くらい前までは、「全て言わなくても、残りの意味はだいたい分かってもらえる。」が多かったようですが、最近は「直感的に分かる言葉」「端的な表現」が求められ、いわゆる「行間を読み取る力」が明らかに弱くなっています。20年前と今、何が違うのか？すでにお察しだと思いますが、インターネット、SNSです。現代はとにかく供給される情報が多い、しかも、矢継ぎ早に情報が入ってきてしまう。そのため一つひとつの情報を丁寧に扱っている暇がない。単に「知る」に留まり、「分かる」「理解する」に至らない。その結果、その言葉の深い意味までを察する力が低下し、「何から何まで全て言ってもらわなければ分からない。」になっているのではないのでしょうか。もうひとつ考えられるのは、最近の情報には必ずと言っていいほど映像が添付されていることです。それにより、文字には表されていない情景や心情を想像する力も弱まっていると思われます。

またぶつぶつと続けてしまいました…。やはり本を読まなければなりません。しかも、文字だけの本を。「見る（観る）」ではなく、「読む」です。これで漢字を覚え、正しい言葉も覚え、想像力も高まります。

ただし、子どもたちに「本を読め。」だけではなく、まずは大人が本を読んでいる姿を見せなければなりません。子どもたちにも言っておきます。「親が読まないんだから自分も読まない。」なんて言い訳しないでくださいね。

